

㊦ 「慈徳仰愈高」 碑



弘前大学金木農場の前身は、昭和 6 年（1931）に「青森県立金木種鶏場」として発足し、昭和 9 年（1934）に「青森県立農事経営指導所」、ついで同年 7 月には「青森県立修練農場」と改称され、その後 10 数年にわたって多くの農村中堅青年を養成しました。戦後は、昭和 22 年（1947）に「青森県立開拓増産修練農場」、昭和 23 年（1948）には「営農実習場」と改称され、さらに昭和 28 年（1953）に「農業総合研究所金木実験農場」と移り変わりました。昭和 31（1956）年 4 月、弘前大学の農学部創設にあたり、農業総合研究所金木実験農場の管理が青森県から弘前大学に委任され「弘前大学農学部附属農場金木農場」となり、昭和 35 年（1960）9 月、正式に移管されました。

その後、平成 9 年（1997）10 月、学部改組に伴い「弘前大学農学生命科学部附属農場金木農場」と改称され、さらに平成 12 年（2000）4 月には「弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター金木農場」となって今日に至っています。

この「慈徳仰愈高」碑は、金木農場の校舎西側の一面に建ち、高さ 4m90cm×幅 95cm と大変立派な石碑です。昭和 10 年（1935）、昭和 13 年（1938）、当時の青森県立修練農場に皇族が御成りになったことを記念し建立されたものです。このことは、金木町出身の太宰治の『津軽』に詳しく記述されており、石碑前の「歴史を刻む石碑」に解説されています。

石碑正面には「慈徳仰愈高」（徳を慈しみ仰げばいよいよ高し一人徳を大切にすれば尊敬の念がより一層高まるものである）と刻まれ、正面左下に「内務大臣末次信正謹書」とあり、

当時内務大臣だった末次信正による書だとわかります。左側面には「昭和十三年十二月八日 金木町建之」と刻まれています。右側面には旧制弘前高等学校教授・彌富破摩雄先生（明治11年（1878）～昭和23年（1948））の撰文による建碑趣意が刻まれています。彌富先生は熊本出身の近世和歌、国学の研究者で、昭和天皇の皇太子時代の教育係を務めた人物です。

〔引用文献〕

1. 村山成治・房 家琛（2009）．金木農場の半世紀, 10, 116.
2. 金木郷土史編纂委員会（編）（1976）．金木郷土史, 257.
3. 木下巽（2009）．ここは太宰のふるさと！！ 太宰治記念館「斜陽館」, その 32-33.

石碑前の解説文

歴史を刻む石碑

弘前大学金木農場は、昭和6年に青森県立金木種鶏場として発足し、昭和9年農事経営指導所、ついで同年7月には修練農場と改称され、その後10年にわたって多くの農村中堅青年を養成し、地域農業の発展に大きな足跡を残した。

戦後は開拓増産修練農場、営農実習場、農産総合研究所金木実験農場と変遷し、昭和31年4月、弘前大学農学部設立にあたり、青森県から国に寄付されて今日に至っている。

修練農場時代、正門は西側にあり、正門から入って講堂玄関に向かうと、この石碑が左手に威風堂々と眺められた。太宰 治の『津軽』には次のように記載されている。

農場の入口に、大きい石碑が立っていて、それには、昭和十年八月、朝霞宮様の御成、同年九月、高松宮様の御成、同年十月、秩父宮様ならびに同妃宮様の御成、昭和十三年八月に秩父宮様ふたたび御成、という幾重もの光栄を謹んで記しているのである。金木町の人たちは、この農場をもっともっと誇ってよい。金木だけではない、これは津軽平野の永遠の誇りであろう。……津軽の各部落から選ばれた模範農村青年たちの作った畑や果樹園、水田などが、それらの建築物の背景に、実に美しく展開していた。（新潮文庫 太宰治著『津軽』より）